

平成30年度

事業報告書

平成30年4月 1日から
平成31年3月31日まで

公益財団法人 鉄鋼環境基金

平成30年度事業報告 目次

| | ページ |
|-----------------------------------|-----|
| I. 研究助成事業（公益目的事業） | 1 |
| 1. 助成研究の募集 | 1 |
| 2. 応募状況 | 2 |
| 3. 助成研究の決定 | 2 |
| 4. 助成研究者との技術交流会、研究討論会並びに製鉄所見学会の開催 | 4 |
| 5. 助成研究成果表彰 | 5 |
| 6. 助成研究成果の普及・広報活動 | 6 |
| II. 調査・研究事業（その他目的事業） | 6 |
| III. 管理・運営 | 6 |
| 1. 会議開催状況 | 6 |
| 2. 広報活動 | 10 |
| 3. 事務局体制 | 10 |
| 附属明細書について | 10 |

I. 研究助成事業（公益目的事業）

1. 助成研究の募集

一般研究助成事業と大規模研究助成事業のうち、大規模研究助成事業に関しては該当する設定課題が無く、本年度は一般研究助成事業のみ助成研究の募集を行った。

助成研究の募集は、従来通り一般研究助成枠と若手研究助成枠（研究内容としては、より基礎的なものも含む）を設けて行った。募集に当っては、募集要綱に下記に示す鉄鋼業に関連する環境保全技術を例示するとともに、課題の背景についても解説し、さらに特に関心のある課題として下記の5項目を掲げることで、応募者のテーマ選定の参考とした。

本年度の公募は、環境研究実施法人窓口へのメール連絡と財団ホームページへの募集要綱の掲載、さらに環境関係の研究を実施している国公立大学、高等専門学校及び独立行政法人を含む公的研究機関等327法人に直接送付することにより行った。

なお、募集要綱については、本年度も経費節減のため直接送付せず、メールにより連絡し、当財団のホームページからダウンロードする方式を採用した。

また、例年どおり、申請書様式のホームページからのダウンロード、メール添付での申請書の受領など、応募者・事務局双方の便宜を図った募集活動を行った。

<鉄鋼業に関連する環境保全技術課題の具体例>

(1)大気環境保全技術

- ① 大気環境対策技術の省エネルギー化、低コスト化及び高効率化
- ② 水銀等重金属類の低減技術
- ③ 微小粒子状物質（PM2.5）の対策技術

(2)土壌・水質保全技術

- ① 水処理技術の省エネルギー化、低コスト化及び高効率化
- ② 排水中重金属の除去・回収技術
- ③ 土壌・地下水汚染に関する測定技術、影響評価及び浄化技術
- ④ 閉鎖性海域の環境対策技術

(3)副産物の利用促進技術・廃棄物の効率的処理技術

- ① 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の利用技術及び高付加価値化技術
- ② 鉄鋼ダスト、鉄鋼スラッジ、鉄鋼スラグ、廃レンガの減量化、減容化、再利用技術
- ③ 水銀汚染廃棄物の効率的処理技術

(4)地球環境問題

- ① 鉄鋼製造プロセスにおける抜本的な二酸化炭素排出削減技術
- ② 未利用エネルギーの有効活用技術
- ③ 二酸化炭素の分離・固定化・隔離技術

(5)エコプロセス

- ① 環境汚染物質の発生を抑制・極小化する鉄鋼製造関連技術
- ② 循環型社会の構築に資する鉄鋼関連技術

<特に関心のある技術課題>

- (1) 水銀・微小粒子状物質（PM2.5）の対策技術
- (2) 水処理技術の高効率化
- (3) 鉄鋼スラグ（高炉スラグ、転炉スラグ、電気炉スラグ等）の利用技術及び高付加価値化技術
- (4) 水銀汚染廃棄物の効率的処理技術
- (5) 鉄鋼製造プロセスにおける抜本的な二酸化炭素排出削減技術

2. 応募状況

応募数は、一般 104 件、若手 42 件の合計 146 件で、前年度の 180 件に対して 34 件の減少であった。分野別には下表の通りである。

| 分類 | 申請件数(件) | | 申請額 (千円) | 研究費総額 (千円) |
|----------|---------|-----|-------------|---------------|
| | 総件数 | 内若手 | | |
| 大気 | 30 | 5 | 40,612 | 77,236 |
| 土壌・水質 | 54 | 20 | 70,071 | 113,088 |
| 副産物 | 30 | 7 | 39,680 | 66,481 |
| 地球環境 | 28 | 10 | 36,900 | 66,350 |
| エコプロセス・他 | 4 | 0 | 6,000 | 10,000 |
| 合計 | 146 | 42 | 193,263 | 333,155 |

3. 助成研究の決定

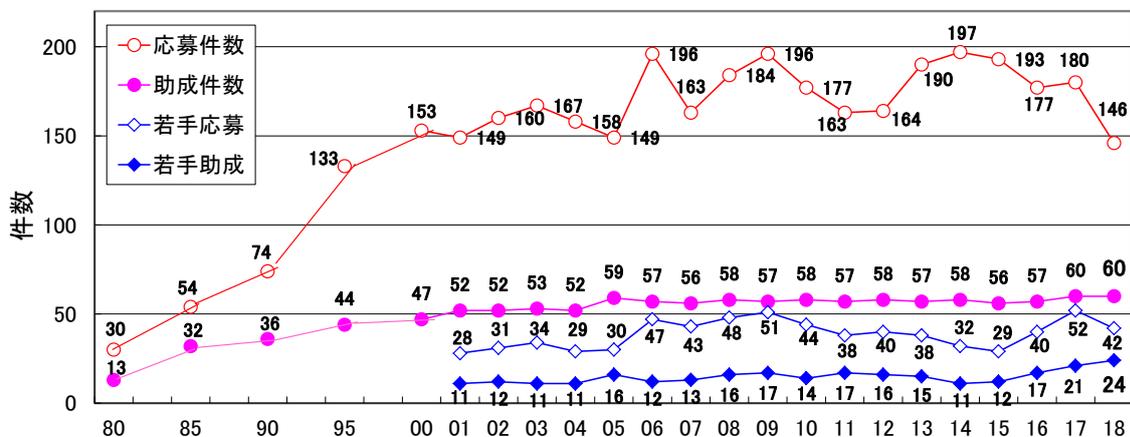
本年度も昨年度同様、助成研究の充実を図るため研究助成金の枠を 75 百万円とした。上記応募案件の中から、技術委員会の選定を経て第 35 回臨時理事会において、一般助成研究 36 件と若手助成研究 24 件の合計 60 件を決定した。

| 分類 | 助成件数(件) | | 助成額 (千円) | 研究費総額 (千円) |
|----------|---------|-----|-------------|---------------|
| | 総件数 | 内若手 | | |
| 大気 | 13 | 3 | 16,622 | 31,532 |
| 土壌・水質 | 19 | 8 | 24,383 | 41,600 |
| 副産物 | 17 | 7 | 21,000 | 36,981 |
| 地球環境 | 11 | 6 | 13,500 | 29,100 |
| エコプロセス・他 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 合計 | 60 | 24 | 75,505 | 139,213 |

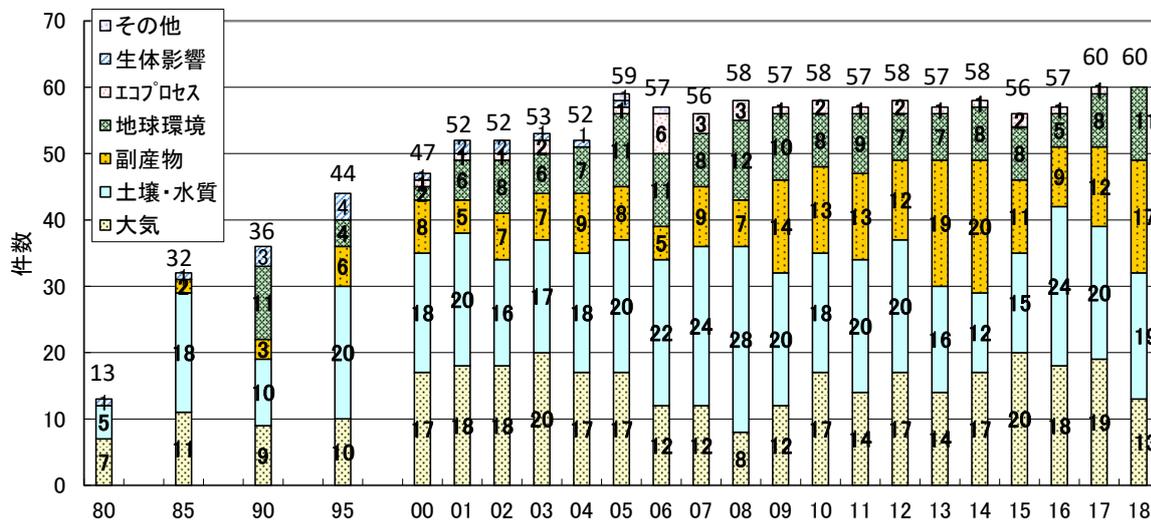
本年度の応募・助成件数に関する特記事項は下記の通り。()内は前年度の実績

- ① 応募総数は 146 件 (180 件) と昨年度に比べ 34 件の減少であった。
- ② 助成件数は 60 件 (60 件) であり、応募件数の 41% (33%) が採用された。
- ③ 継続研究は 26 件 (26 件) が採用され、助成件数全体の 43% (43%) であった。応募に対する採用率は 90% (81%) であった。
- ④ 新規研究は 117 件 (148 件) の応募に対して 34 件 (34 件) が採用され、助成件数全体の 57% (57%) であった。応募に対する採択率は 29% (23%) であった。
- ⑤ 新規研究のうち、初めて応募した研究者は 41 名 (60 名) であった。また、初めて助成を受ける研究者は 23 名 (19 名) で過去最多となった。
- ⑥ 若手研究は応募件数が 42 件 (52 件) に対して 24 件 (21 件) が採択され、過去最多の採択数となった。応募に対する採択率は 57% (40%) であり、助成件数全体の 40% (35%) となった。
- ⑦ 大学からの応募は 116 件 (144 件) であり、このうち 51 件 (49 件) が採択された。
- ⑧ 高等専門学校からの応募は 12 件 (16 件) であり、このうち 0 件 (2 件) が採択された。
- ⑨ 独立行政法人他団体からの応募は 18 件 (20 件) であり、このうち 9 件 (9 件) が採択された。
- ⑩ 今回初めての応募組織が 3 組織あった。また、初めて採用した組織は 3 組織であった。
- ⑪ 助成案件の研究総額に対する助成金額の割合は、54% (54%) となっている。

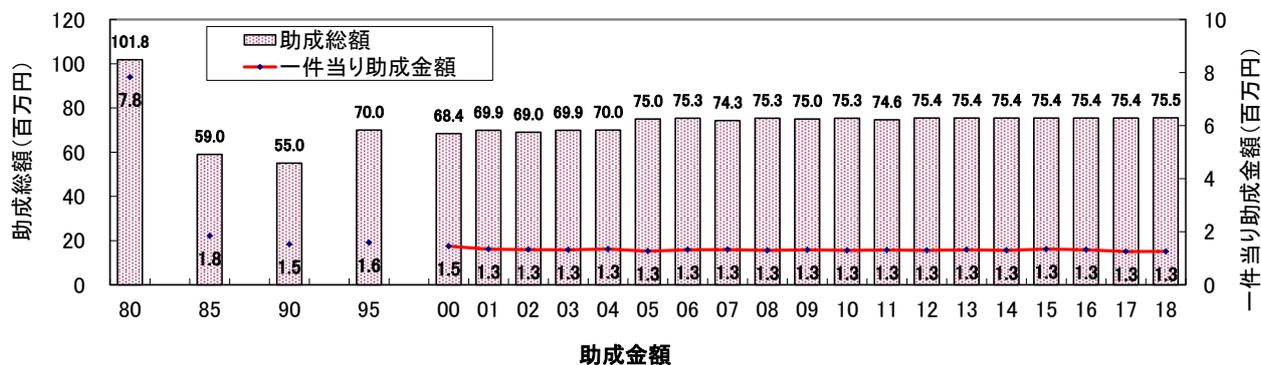
鉄鋼環境基金の助成実績



応募件数・助成件数の推移



分野別助成件数の推移



4. 助成研究者との技術交流会、研究討論会並びに製鉄所見学会の開催

(1) 技術交流会

技術交流会は、助成研究の初期段階において、助成研究者の研究現場を鉄鋼技術者が訪問し、産学連携の視点から研究課題や研究の進め方等の議論を行い、技術交流を深めることを目的としている。

平成30年度も助成研究者12名と下記の通り技術交流会を実施した。

- ① 平成30年12月17日 助成者：東京農工大学 村岡 貴博
テーマ：環境モニターと環境浄化に有効な新規微生物ラベル化法の開発
- ② 平成30年12月27日 助成者：三重大学 野中 寛
テーマ：セルロース系増粘剤を用いた鉄鋼スラグ押出成形品の開発
- ③ 平成31年1月11日 助成者：信州大学 浅岡 龍徳
テーマ：吸収式氷スラリー生成機による低質未利用熱の有効活用
- ④ 平成31年1月18日 助成者：金沢大学 長門 Edward 豪
テーマ：日本海の高環芳香族炭化水素類の挙動と毒性発現に関する研究
- ⑤ 平成31年1月18日 助成者：金沢大学 鳥羽 陽
テーマ：大気粒子の生物化学的活性酸素産生能予測と活性寄与物質の同定
- ⑥ 平成31年1月29日 助成者：北海道大学 野呂 真一郎
テーマ：柔らかい多孔性物質による高効率二酸化炭素分離材料の創製
- ⑦ 平成31年1月29日 助成者：北海道大学 望月 友貴
テーマ：塩化揮発法による鉄鋼スラグの高効率資源化技術の開発
- ⑧ 平成31年2月8日 助成者：京都大学 亀田 貴之
テーマ：石炭燃焼由来の腐植様物質との相互作用によるPAHの有害化反応
- ⑨ 平成31年2月15日 助成者：東北大学 今宿 晋
テーマ：製鋼スラグの再利用率と品質を向上させるための新規分析法の確立
- ⑩ 平成31年3月8日 助成者：東京工業大学 渡部 弘達
テーマ：ダイレクトカーボン燃料電池を活用した炭素析出抑制の研究
- ⑪ 平成31年3月19日 助成者：八戸工業大学 片山 裕美
テーマ：有機汚染物質の化学的浄化に向けたスラグの触媒利用に関する研究
- ⑫ 平成31年3月26日 助成者：静岡県立大学 徳村 雅弘
テーマ：フェントン型反応を応用した未規制汚染物質の高効率除去法の開発

(2) 研究討論会

研究討論会は、助成研究が進んだ段階で助成研究者を招待し、研究成果・今後の研究課題について、産学連携の視点から鉄鋼技術者と討論することを目的としている。

本年度は、以下の通り4回の研究討論会を実施した。

- ① 平成30年度 第1回 土壌・水質分野 平成31年2月1日
 - ・ 報告者：国立環境研究所 小野寺 崇 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：バイオガスを活用した高効率型排水処理リアクターの開発
 - ・ 報告者：広島大学大学院 荻 崇 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：アミノ酸を活用するポリ酸形成金属イオンの沈殿分離回収と再資源化
 - ・ 報告者：産業技術総合研究所 眞野 浩行 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：種間差と水質を考慮したミジンコに対するニッケルの生態毒性評価
- ② 平成30年度 第2回 地球環境分野 平成31年2月22日
 - ・ 報告者：東北大学大学院 村上 太一 (2017～2018：一般助成研究)
テーマ：排熱と未炭化バイオマスを用いた極低環境負荷迅速製鉄
 - ・ 報告者：北海道大学大学院 能村 貴宏 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：液相燃焼合成によるナノスケール分散型化学蓄熱材料の開発
 - ・ 報告者：九州工業大学大学院 高辻 義行 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：多孔質亜鉛電極によるCO₂資源化とその反応機序解明

- ・ 報告者：名古屋工業大学 本林 健太 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：界面デザインによるイオン液体中の CO₂ の電解還元反応の高効率化

③ 平成 30 年度 第 3 回 副産物分野 平成 31 年 3 月 4 日

- ・ 報告者：秋田大学大学院 井上 亮 (2017～2018：一般助成研究)
テーマ：製鋼スラグ中フリーマグネシアの水和抑制
- ・ 報告者：名古屋工業大学 伊藤 洋介 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：電気炉酸化スラグを骨材としたモルタルの電波吸収性能の向上
- ・ 報告者：東北大学大学院 平木 岳人 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：難処理性製鋼スラグを原料とした水質浄化材料の合成
- ・ 報告者：横浜国立大学大学院 崔 瑛 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：スラグ混合土を用いた河川堤防浸透対策の提案

④ 平成 30 年度 第 4 回 大気分野 平成 31 年 3 月 13 日

- ・ 報告者：(国研)産業技術総合研究所 兼保 直樹 (2017～2018：一般助成研究)
テーマ：PM2.5 金属組成および大気主要組成測定を組合わせた PM2.5 発生源解析技術の開発
- ・ 報告者：北海道大学 宮崎 雄三 (2017～2018：一般助成研究)
テーマ：硫酸塩と粒子含水量が植生由来 PM2.5 生成へ及ぼす影響の解明
- ・ 報告者：山梨大学大学院 植田 郁生 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：微小粒状物質中の半揮発性有機化合物の精密定量に関する基礎的検討
- ・ 報告者：九州大学 弓本 桂也 (2017～2018：若手助成研究)
テーマ：ひまわり 8 号データを用いた PM2.5 同化・予測システムの開発

(3) 製鉄所見学会の開催

鉄鋼業に対する助成研究者の理解を深めていただくことを目的に、前年度の助成研究者を対象に第 12 回製鉄所見学会を開催した。

期 日 平成 30 年 5 月 29 日
見学先 (株) 神戸製鋼所 高砂製作所
参加者 23 名

5. 助成研究成果表彰

助成研究のさらなる充実、助成研究者へのインセンティブ向上を目的に、第 9 回助成研究成果表彰を実施した。表彰対象者への募集の結果、10 名の応募があり、技術委員会による審査により各賞の候補者を選考し、平成 30 年 6 月 1 日の理事会において各賞受賞者を決定した。表彰式並びに受賞記念講演会を平成 30 年 10 月 4 日に鉄鋼会館において開催した。

| 賞の名称 | 表彰対象者 |
|--------|--|
| 理事長賞 | 環境技術及び学術の進歩を通して鉄鋼業や社会に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者 受賞者：坪内 直人 北海道大学大学院工学研究院・准教授 テーマ：安価な低品位褐鉄鉱を用いるコークス炉ガス中の含窒素化合物の分解除去法の開発 |
| 技術委員長賞 | 環境技術及び学術の進歩に、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた若手助成研究者 受賞者：夏井 俊悟 北海道大学大学院工学研究院・助教 テーマ：高反応性原料の 3 次元ヘリカル構造による低炭素高炉の固気流れ安定化 |
| 鉄鋼技術賞 | 鉄鋼環境技術の進歩を通して鉄鋼業に対し、卓越した功績が認められる助成研究成果をあげた助成研究者 受賞者：桑原 泰隆 大阪大学大学院工学研究科・助教 テーマ：高炉スラグを原料としたリン吸着材の合成と実排水からの効率的リン回収・再資源化技術の開発 |

6. 助成研究成果の普及・広報活動

(1) 助成研究成果概要集の発行

平成 29 年度分 30 件（平成 28 年度の 3 件を含む、大気関係：12 件、土壌・水質関係：11 件、副産物関係：3 件、地球環境関係：3 件、エコプロセス関係：1 件）を概要集として取りまとめ、研究成果の活用を推進するため、大学、公的研究機関等へ広く配付した。

(2) 助成研究成果概要の外部データベースへの登録

一般の研究者が助成研究成果にアクセスできるように研究成果概要を JST（（独）科学技術振興機構）、JFC（（公財）助成財団センター）及び国立国会図書館へ登録した。
（平成 29 年度助成分 30 件、累計 821 件）

(3) 助成研究成果報告書データベースの一般公開

財団の主事業である環境研究助成事業の成果をより広く社会に還元・普及していくことを目的に、助成した環境研究の成果報告書等を収録したデータベース「FERAS」をホームページ上に一般公開している。「FERAS」には、昭和 55（1980）年からの成果報告書が収録されており、今回平成 29 年度分 30 件を収録して、合計 962 件となった。

* FERAS : The Fruits of the Environmental Researches Aided by SEPT

(4) 研究成果報告会の開催

助成研究の成果をより広く活用していただくことを目的に公開の報告会を開催した。

【平成 30 年度成果報告会】

期 日 : 平成 31 年 3 月 22 日

場 所 : 鉄鋼会館 8 階 811 号室

参加者 : 28 名

テーマ : 大気分野

報告者 ○ 九州大学大学院 准教授 山本 剛

高効率連続再生式 PM2.5 除去装置の開発とその低温化に関する研究

〔2015～2016 年度 一般研究助成〕

○ (国研)産業技術総合研究所 上級主任研究員 忽那 周三

マイクロバブルとアルカリ水による代替フロンの省エネルギー処理システムの開発

〔2015～2016 年度 一般研究助成〕

○ 名古屋工業大学 教授 羽田 政明

触媒のみで実現可能な高温排ガス NOx 浄化技術の開発

〔2017 年度 一般研究助成〕

○ 名古屋工業大学 准教授 定永 靖宗

東アジアから越境輸送される粒子状・ガス状有機硝酸の観測

〔2016～2017 年度 一般研究助成〕

II. 調査・研究事業（その他目的事業）

調査・研究事業については、本財団の主事業である研究助成事業に資するため、鉄鋼業に関わる環境保全技術上の諸課題を踏まえ、広く知見の収集・調査を行った。

具体的な調査・研究テーマは以下のとおり。

「中国の環境規制動向と鉄鋼業の対応状況調査 その 2」: 日鉄住金総研(株) (2018/10～2019/3)

III. 管理・運営

1. 会議開催状況

[1] 理事会

理事会の開催状況は次の通りである。

(1) 第 32 回臨時理事会（平成 30 年 4 月 12 日）

議題

① 技術委員委嘱の件

（辞任）平成 30 年 4 月 12 日付

沼田 哲始 元・JFEスチール株式会社 環境防災・リサイクル部 副部長
(就任) 平成 30 年 4 月 12 日付

山本 彰 JFEスチール株式会社 環境防災・リサイクル部 副部長

(2) 第 33 回通常理事会 (平成 30 年 6 月 1 日)

議題

① 平成 29 年度事業報告書 (案) 承認の件

② 平成 29 年度決算報告書 (案) 承認の件

③ 理事候補者の件

(辞任) 平成 30 年 6 月 22 日付

鈴木 英夫 新日鐵住金株式会社常務執行役員

松本 剛 JFEスチール株式会社スラグ事業推進センタースラグ企画部長
(理事)

泥 俊和 株式会社神戸製鋼所環境防災部長

(就任) 平成 30 年 6 月 22 日付

福島 裕法 JFEスチール株式会社専務執行役員

坂本 和彦 アジア大気汚染研究センター所長・埼玉大学名誉教授

指宿 堯嗣 一般社団法人産業環境管理協会技術顧問

脇本 眞也 一般社団法人日本鉄鋼協会専務理事

伊吹 隆直 一般社団法人日本鉄鋼連盟技術・環境部長

泉山 雅明 新日鐵住金株式会社環境部長

井上 尚和 株式会社神戸製鋼所環境防災部担当部長

野口 計 日新製鋼株式会社技術総括部環境・省資源推進室長

小川 雄司 公益財団法人鉄鋼環境基金事務局長

④ 評議員候補者の件

(辞任) 平成 30 年 6 月 22 日付

渡辺 敦 JFEスチール株式会社専務執行役員西日本製鉄所長

高橋 望 新日鐵住金株式会社執行役員北京事務所長

吉武 邦彦 株式会社神戸製鋼所電力事業部門神戸建設本部長 (理事)

(補欠就任) 平成 30 年 6 月 22 日付

鈴木 英夫 新日鐵住金株式会社常務執行役員

松本 剛 JFEスチール株式会社スラグ事業推進センタースラグ企画部長
(理事)

泥 俊和 株式会社神戸製鋼所環境防災部長

⑤ 第 9 回助成研究成果表彰 (案) の件

⑥ 平成 30 年度寄附金募集の件

⑦ 第 14 回定時評議員会招集の件

報告事項

① 代表理事 (理事長・専務理事) の職務執行状況について

(3) 第 34 回臨時理事会 (平成 30 年 7 月 2 日)

議題

① 理事長及び専務理事互選の件

(就任) 平成 30 年 7 月 2 日付

理事長 福島 裕法 理事

専務理事 小川 雄司 理事

(4) 第 35 回臨時理事会 (平成 30 年 10 月 26 日)

議題

① 第 39 回 (2018 年度) 研究助成金交付の件

報告事項

- ① 代表理事（理事長・専務理事）の職務執行状況について

(5) 第36回臨時理事会（平成30年11月26日）

議題

- ① 監事候補者の件

（辞任）平成30年12月10日付

内田 靖人 鐵鋼スラグ協会常務理事

（補欠就任）平成30年12月10日付

柏原 史隆 鐵鋼スラグ協会総務部部長

- ② 第15回臨時評議員会招集の件

(6) 第37回通常理事会（平成31年3月5日）

議題

- ① 技術委員委嘱の件

（退任）平成31年3月31日付

岡田 光正 放送大学 理事・副学長、広島大学 名誉教授

（就任）平成31年4月1日付

鵜野 伊津志 九州大学 応用力学研究所 主幹教授

（再任）平成31年4月1日付

風間 ふたば 山梨大学 国際流域環境研究センター長 教授

御福 浩樹 日本製鉄株式会社 環境部 環境技術室 上席主幹

近藤 裕昭 (一財)日本気象協会 事業本部 参与

酒井 伸一 京都大学 環境安全保健機構附属環境科学センター長 教授

畠山 史郎 埼玉県環境科学国際センター 総長、東京農工大学 名誉教授

早川 和一 金沢大学 名誉教授、環日本海域環境研究センター 特任教授

平田 健正 放送大学 和歌山学習センター 所長

細見 正明 東京農工大学大学院 工学研究院 教授

山本 彰 JFEスチール株式会社 環境防災・リサイクル部 副部長

山本 和夫 (一財)造水促進センター 理事長、いであ(株) 社外監査役

- ② 研究助成事業に関する規程の改訂（案）

- ③ 平成31年度事業計画書（案）承認の件

- ④ 平成31年度収支予算書（案）承認の件

報告事項

- ① 第40回（2019年度）助成研究募集について

- ② 代表理事（理事長・専務理事）の職務執行状況について

〔2〕評議員会

評議員会の開催は次の通りである。

(1) 第14回定時評議員会（平成30年6月22日）

議題

- ① 平成29年度事業報告及び承認の件

- ② 平成29年度決算報告及び承認の件

- ③ 理事選任の件

（辞任）平成30年6月22日付

鈴木 英夫 新日鐵住金株式会社常務執行役員

松本 剛 JFEスチール株式会社スラグ事業推進センタースラグ企画部長
(理事)

泥 俊和 株式会社神戸製鋼所環境防災部長

（就任）平成30年6月22日付

福島 裕法 JFEスチール株式会社専務執行役員

| | |
|-------|--------------------------|
| 坂本 和彦 | アジア大気汚染研究センター所長・埼玉大学名誉教授 |
| 指宿 堯嗣 | 一般社団法人産業環境管理協会技術顧問 |
| 脇本 眞也 | 一般社団法人日本鉄鋼協会専務理事 |
| 伊吹 隆直 | 一般社団法人日本鉄鋼連盟技術・環境部長 |
| 泉山 雅明 | 新日鐵住金株式会社環境部長 |
| 井上 尚和 | 株式会社神戸製鋼所環境防災部担当部長 |
| 野口 計 | 日新製鋼株式会社技術総括部環境・省資源推進室長 |
| 小川 雄司 | 公益財団法人鉄鋼環境基金事務局長 |

④ 評議員選任の件

(辞任) 平成 30 年 6 月 22 日付

| | |
|-------|-----------------------------|
| 渡辺 敦 | J F E スチール株式会社専務執行役員西日本製鉄所長 |
| 高橋 望 | 新日鐵住金株式会社執行役員北京事務所長 |
| 吉武 邦彦 | 株式会社神戸製鋼所電力事業部門神戸建設本部長 (理事) |

(補欠就任) 平成 30 年 6 月 22 日付

| | |
|-------|--|
| 鈴木 英夫 | 新日鐵住金株式会社常務執行役員 |
| 松本 剛 | J F E スチール株式会社スラグ事業推進センタースラグ企画部長 (理事) |
| 泥 俊和 | 株式会社神戸製鋼所環境防災部長 |

報告事項

- ① 第 9 回 (2018 年度) 助成研究成果表彰
- ② 第 39 回 (2018 年度) 環境助成研究応募状況
- ③ 平成 30 年度寄附金募集
- ④ 鉄鋼環境基金データベースの非公開情報流出について
- ⑤ 非公開情報の E メールでのご配信について

(2) 第 15 回臨時評議員会 (平成 30 年 11 月 10 日)

議題

① 監事選任の件

(辞任) 平成 30 年 12 月 10 日付

| | |
|-------|-------------|
| 内田 靖人 | 鉄鋼スラグ協会常務理事 |
|-------|-------------|

(補欠就任) 平成 30 年 12 月 10 日付

| | |
|-------|--------------|
| 柏原 史隆 | 鉄鋼スラグ協会総務部部長 |
|-------|--------------|

〔3〕技術委員会

技術委員会の開催状況は次の通りである。

(1) 第 126 回技術委員会 (平成 30 年 5 月 15 日)

議題

- ① 第 9 回 (2018 年度) 助成研究成果表彰の選考
- ② 環境助成研究審査方法の変更について

(2) 第 127 回技術委員会 (平成 30 年 7 月 19 日)

議題

- ① 第 39 回 (2018 年度) 助成研究の審査分担について

報告事項

- ① 助成研究の応募件数変化について
- ② 第 9 回助成研究成果表彰式の開催について

(3) 第 128 回技術委員会 (平成 30 年 10 月 16 日)

議題

- ① 第 39 回 (2018 年度) 助成研究案件の選定

2. 広報活動

(1) ホームページの充実・情報の発信

当財団の概要並びに研究助成事業等についてホームページ上にて紹介し、募集開始・応募状況・助成者の決定・成果報告会開催などタイムリーに情報を掲載するとともに、各研究機関・研究者に対して電子メールにより情報を発信した。

また、第39回（2018年度）助成研究の募集に際して、環境研究実施法人窓口へのメール連絡と財団ホームページへの募集要綱掲載に加え、環境技術関連13学会の学会誌、ホームページ等に募集要項を掲載した。

(2) 鉄鋼環境基金ニュースの発行

広く関係者が閲覧できるようにホームページに鉄鋼環境基金ニュースを掲載した。

| No.（発行月） | 主要な掲載内容 |
|----------------|---|
| 第64号（2018年4月） | ・第39回（2018年度）環境助成研究募集 |
| 第65号（2018年10月） | ・第39回（2018年度）環境助成研究 助成者決定 ・第9回（2018年度）助成研究成果表彰 表彰式・記念講演会の開催状況 |

3. 事務局体制

事務局は下記2名の体制にて事業を推進した。（平成31年3月末時点）

小川 雄司 専務理事・事務局長
松本 勲 総務担当部長

附属明細書について

平成30年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上